



- 笑顔あふれる学校に
- 美しくきれいな学校に
- 創造する学校に

- ◎思いやりがあり、仲良く助け合う子ども
- ◎自ら進んで学び考えわかりできる子ども
- ◎健康で、ねばり強く、実行できる子ども

- ◇笑顔あふれる教職員に
- ◇常に課題意識を持ち続ける教職員に
- ◇進んで学ぶ教職員に

友達を大切にして、みんなと仲良く笑顔のたえない、**明るい学級、明るい学年、明るい学校**を目指します。
高須小学校の教育活動の推進に、ご理解とご協力をお願いします。

校長 小田 容敬

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

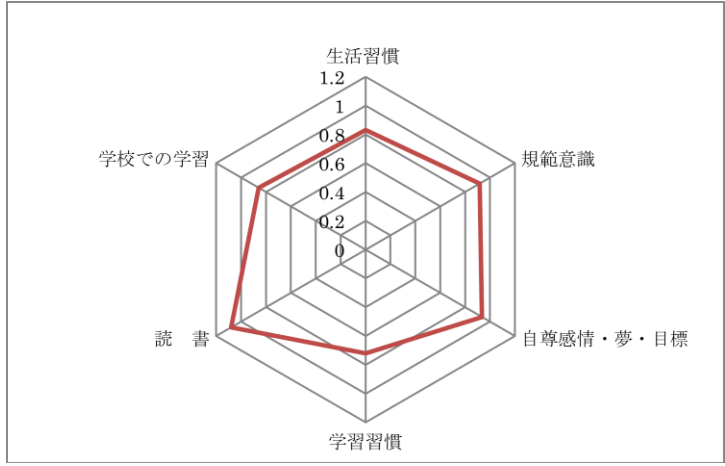
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることとはできません。この学力調査もそのときの学力の一部分を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	平均正答率は全国より下回っているが、無解答率が全国よりも低い問題数が多かった。短答式よりも選択式の問題形式の方が、正答率が高い。	下回っている
国語B	平均正答率は全国より下回っていて、無解答率が国語Aよりも高くなっている。読む能力を問う問題に課題があり、読み取る力をつける必要がある。	下回っている
算数A	平均正答率は全国より下回っているが、無解答率が0の問題も多くあった。選択式よりも短答式の問題形式の方が、正答率が高い。	下回っている
算数B	平均正答率は全国より下回っているが、無解答率が全国よりも低い問題数が多かった。記述式の問題形式の正答率が低い。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・将来の夢や目標をもっている児童や、人の役に立つ人間になりたいと思う児童が全国平均よりも高い。今後も、児童の自尊感情が高まるような取組を続けていきたい。
- ・学習活動の中で、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいと感じている児童が多い。話す・書く活動を授業の中に位置づけていく必要がある。
- ・学校の宿題をきちんとしている児童は95%以上いるが、自分で計画を立てて勉強している児童が少ない。自分の課題を捉え、自主的に学習する態度を育てていきたい。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・授業の中で、話し合う活動や書く活動を位置づけていくようにする。
- ・毎時間、「めあて」と「まとめ」を確実に板書し、児童が学習の見通しを持てるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・各担任が「家庭学習チャレンジハンドブック」を定期的に点検するとともに、家庭学習に取り組むよう声かけをしていく。また、保護者に対し、家庭学習の取組について、継続して啓発していく。
- ・学校として、きまりを徹底して守る姿勢を家庭に示し、児童への指導も徹底していく。今後も家庭と連携し、規範意識を高めていくように努めていく。

1月12日(木)に、1～4・6年生はC R T検査、5年生は北九州市学力状況調査を行います。
C R T検査及び北九州市学力状況調査は、国語と算数に関する調査です。2学期までに学習した内容が出題されます。児童には、冬休みを利用して、これまでに学習した内容の復習に取り組むとともに、家庭学習に取り組む習慣を身に付けてほしいと思います。